

令和6年度 大阪市立摂陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和6年度 大阪市立摂陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	138	44	36	8.1	22.1
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	133	57.0	41.5	39.3	40.4	40.4	7.4	6.5	19.7	7.7	11.6
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2 年	学校	107	57.3	40.7	43.2	41.4	49.6	13.2	6.5	11.7	8.2	8.4
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1 年	学校	114	50.1	46.6	45.6	47.7	53.6	13.1	7.0	9.4	6.2	6.4
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

- ※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施
- ※ 1年生の理科は化学的領域を選択
- ※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択
- ※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	129	79.6	77.2	80.2	66.8
	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	135	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	32.75	27.18	41.07	52.43		79.78	7.88	201.30	20.76	43.03
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	422.62	79.76	8.08	194.64	19.84	41.10
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	410.69	78.98	7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	24.42	17.45	45.31	46.02		44.46	9.16	168.46	11.29	44.40
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	337.57	52.98	9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.56	46.47	45.65	309.02	50.67	8.96	166.32	12.40	47.37

令和6年度 大阪市立摂陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

●「全国学力・学習状況調査結果」

昨年に比べて、全体の平均正答率が下がった。全国平均と比較しても国語は14.1ポイント、数学は16.5ポイント下回る結果となった。また、平均無解答率は全国平均を上回っている。教科ごとの結果は以下の通りである。

＜国語＞

「我が国の言語文化に関する問題」については正答率が高い。しかし「言葉の特徴や使い方に関する問題」「読むことについての問題」は、全国平均に-14ポイントと、大きく差が開いた。課題としては、「自分の考えを書く問題」ではかなり正答率が低く、自分を表現する練習を増やす必要がある。

＜数学＞

「数と式」の分野については全国平均に-19.2ポイントと大きく下回った。また、「データ活用に関する問題」についても全国平均を大きく下回る結果となった。また、証明に関する文章問題では正答率がかなり低く、基本練習を重ねる必要がある。

＜質問紙調査＞

「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」の項目で、4時間以上使用している回答が全国平均を上回った。
また、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」や「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」についての2・3時間以上の回答は、全国平均に比べてかなり低く、自分から進んで学習をすることや、家庭学習の定着に課題が見られる。 また、読書時間も全国平均に比べ大幅に低い結果となった。

【今後に向けて】

放課後学習会やテスト前学習会では主体的に参加し学習する生徒もみられ、学習に対する意識は向上しつつある。特にテスト前学習会では参加生徒数が多く学びサポーター及び学校元氣アップ、各学年教員等が多数学習サポートを行っている。また、夏休みの補充学習会にも積極的に参加する生徒が増えつつあり、今後も継続した実施を行っていく。図書館の利用については昨年度と比較してもさほど変わらないが、生徒や教職員におすすめアンケートを実施し結果を廊下に掲示するなど読書意欲を高める啓発活動を実施している。給食により昼休みの利用が時間的に厳しくなったが、一定数定期的に足を運び本を借りる生徒もいる。これらが、日々の家庭での学習や読書の習慣につながれば良いが、なかなか定着には至っていない。家庭学習の定着に向けては、宿題等課題の工夫に引き続き取り組む。キャリア学習では、各学年、企業と地域、保護者と連携した体験学習および職業講話（生き方学習会）を充実させ、学習目的や学習意欲の向上をめざし取り組んでいる。また、事前・事後学習を含め、意見交流やプレゼンに取り組むなど主体的、対話的な活動の取り組みも行っている。今後、教科指導においても予想・実験・考察の機会を多く持ったり、「根拠を示して自分の意見を発表することや話し合い考えを深める機会を積極的に設けるなど、学校全体で主体的に対話的活動に取り組み、「深い学び」につなげていく。更には心の天気を含むICT活用率を高め、個別最適な授業づくり、授業改善に取り組んでいく。

●「中学生チャレンジテスト(3年生)」

【成果と課題】

国語＜成果＞大阪府平均とかなり近い値であった。古文問題の課題や授業で自分の意見を書く活動をしている一定の成果と考えられる。大阪府平均とかなり近い値であった。古文問題の課題や授業で自分の意見を書く活動をしている一定の成果と考えられる。

＜課題＞全体の平均点および、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問題については、大阪府平均より大幅に低くなっている。今後も文法や日常会話における言語指導を続けていく必要がある。

社会＜成果＞平均点は大阪府と比較して、8.9マイナスであった。地理分野・歴史分野ともに府平均から4.2と4.8とマイナスであったが、個々の問題で見ると、地形図から断面図を読み取る問題や歴史分野の地図から場所を選ぶ問題は府平均よりも上回る結果であった。

＜課題＞社会科においては、地理・歴史両分野とも府平均よりも低いいため、基礎を固め、知識の定着が図れるように、振り返りのプリントなどを用いて、知識の定着を図っていく。

数学＜成果＞平均点は大阪府と比べて、マイナス9.8マイナスであった。どの分野においても大阪府平均を下回っているが、進められるよう、レベル別のプリントに取り組ませていく。

＜課題＞数学科では特に基礎、基本の定着を図るために問題演習の量の増加をさせていく。また、個々のレベルに合わせて学習が進められるよう、レベル別のプリントに取り組ませていく。

理科＜成果＞平均点は大阪府と比べて、12点低かった。観点別では特に、知識技能が8点低く、また分野別では、生命単元が6点、地球単元が3点低く、語句を覚えなくてはならない部分が弱かった。

＜課題＞理科において、普段生活の中で使わない語句を復習することが自信と結果につながると考えるので、語句や重要項目に取り組み知識の定着を図る機会を増やしたい。

英語＜成果＞平均点は大阪府と比較して、13.2マイナスであった。「聞くこと」の正答率については、大阪府平均とかなり近い値であった。リスニングの実施を定期的に行った成果であると考えられる。

＜課題＞全体の平均点および、「書くこと」などの記述する問題については、大阪府平均より大幅に低くなっている。テンプレートなどを用いて、さまざまな条件の英作文を書く機会が必要である。

＜アンケート＞○成果アンケート調査においては「テレビや新聞、インターネットで社会的な出来事に関するニュースを見ている。」についての肯定回答が、府平均を上回った。また、「普段（月曜日から日曜日）、1日平均どれくらいの時間、本（教科書は除く）を読みますか」の項目については府平均と0.1ポイントしか変わらず、読書の習慣のある生徒が多い。また「普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか」について、4時間以上使用するとの回答が49.2パーセントと、非常に高い数値となった。

【今後に向けて】「中学生チャレンジテスト(3年生)」の結果より、各教科・各領域において府平均より下回っている。国語であれば漢字の読み書きの復習、数学であれば計算問題の復習と、どの教科においても復習する時間の確保が必要不可欠だと改めてわかった。基礎基本の知識定着を重点的に進めていく。また、「読書」の習慣がさらに身に付くよう、図書室の活用を促進させていく。

令和6年度 大阪市立摂陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

●「中学生チャレンジテスト(2年生)」

＜国語＞

○成果

府平均に比べて8.2ポイント下回る結果となった。ただ、例年府平均と大きく差が出る「書くこと」に関しては、-0.2ポイントにとどまり、書くことに対する苦手意識の克服、文章作成能力においては一定の成果が見られた。

○課題

「我が国の言語文化に関する事項」では、3ポイントの開きがある。読書活動など、日頃から語彙を増やす活動を増やすとともに、古典に関する言語知識の定着を図る必要がある。

＜社会＞

○成果

府平均に比べて、9.0ポイント下回る結果となった。「地理的分野」5.0、「歴史的分野」ともに4.0ポイント、「思考・判断・表現」では5.0ポイント、「短答式」では2.0ポイント、「記述式」でも0.7ポイントの差にとどまり、実力が足りなかった。

○課題

「歴史的分野」に比べて「地理的分野」の得点率が低いため、知識の定着を図っていく必要がある。また資料(表など)から情報を正確に読み取る問題でも正解率が低いため、普段から資料の読み取る練習を図る必要がある。

＜数学＞

○成果

府平均と比べて、9.9ポイント下回る結果となった。「図形分野」は4.1ポイントと少し開きはあったが、「数と式の分野」は3.1ポイント、「関数分野」は2.8ポイントの差にとどまり、一定の成果を見ることができた。

○課題

「図形分野」の証明の範囲が他と比べて弱いので、基礎から見直す必要がある。また、「数と式の分野」においても日常的に取り組む必要がある。

＜理科＞

○成果

府平均に比べ7.7ポイント下回っていたが、分野によっては府平均を上回るものもあった。しかし、知識・技能や、記述で答える設問では正答率が低かった。

○課題

知識理解の正答率を上げるべく、基本用語や基本項目の知識の定着を図る必要がある。無解答率が高いことも正答率を引き下げる一因となった。

●「中学生チャレンジテストならびに大阪市版チャレンジテストplus(1年生)」

＜国語＞

○成果

府平均に比べ、8.4ポイント下回る結果となった。「読むこと」では府平均-3.0ポイントと大きな差があった。ただ、苦手意識を持ちやすい「書くこと」が-1.7ポイントにとどまったことは一定の成果といえる。

○課題

「知識・技能」に比べ、「思考・判断・表現」の正答率が低く課題がみられ改善する必要がある。

＜社会＞

○成果

府平均と比較し-7.1ポイント下回る結果となったが、歴史が-8.7下回っており、大きな課題である。

○課題

地理や歴史の基礎問題が特にできていないため、基礎学力を定着させて、知識技能を向上させていく必要がある。

＜数学＞

○成果

府平均に比べ、4.2ポイント下回る結果となった。「知識・技能」は-3.3ポイント、「思考・判断・表現」は-1.1ポイントであった。

○課題

「知識・技能」分野が若干弱い傾向にあるので、数学的な語句や記号の意味の定着をより一層図っていく必要がある。

＜理科＞

○成果

市の平均に比べ7.9ポイント下回っていた。特に基礎の部分が10ポイントも低く、基礎の定着をはからなければいけない。

○課題 知識理解の正答率を上げるべく、基本用語や基本項目の知識の定着を図る必要がある。それにつれて、思考・判断・表現の技能が上がると思われる。

＜英語＞

○成果

府平均に比べ、7.9ポイント下回る結果となった「読むこと」が-4.3ポイントと少し開きはあったが、「聞くこと」が-2.0ポイント、「書くこと」が-1.7ポイントの差にとどまり、一定の成果を見ることができた。

○課題

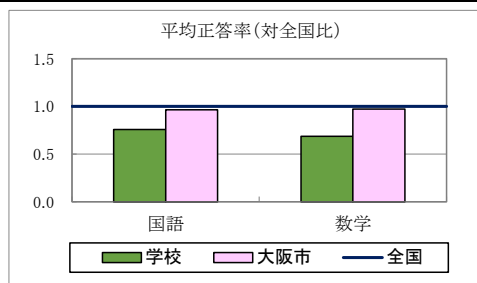
「読むこと」の分野が他の分野と比べて少し弱いので、普段の授業から声を出す練習を重ねることが必要である。ペアワークなどを活用して、声に出して発表することも持続的に取り組むことが大切である。

令和6年度 大阪市立摂陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

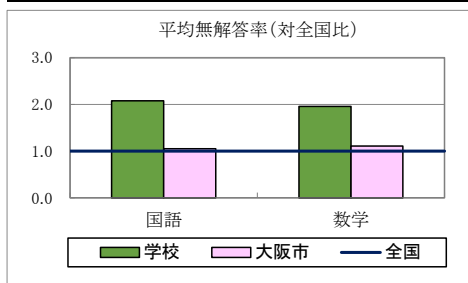
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	44	36
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5

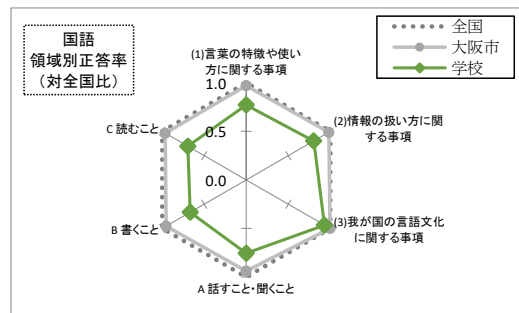
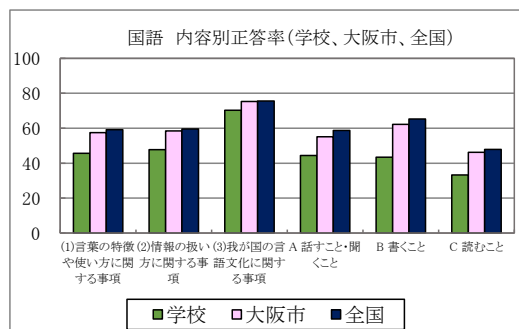


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	8.1	22.1
大阪市	4.1	12.5
全国	3.9	11.3



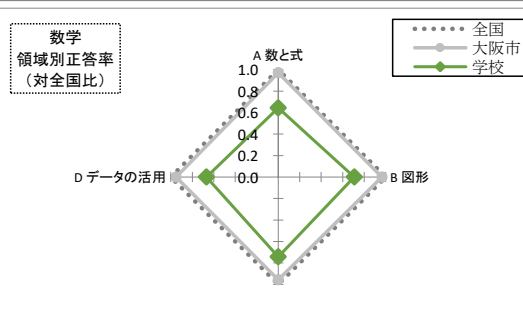
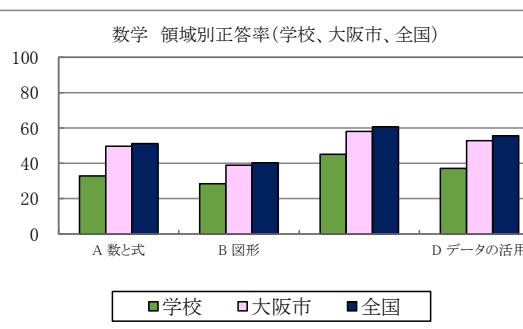
【 国 語 】

学習指導要領の 内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	3	45.7	57.5	59.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	47.8	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化 に関する事項	1	70.3	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	44.4	55.2	58.8
B 書くこと	2	43.5	62.2	65.3
C 読むこと	4	33.3	46.2	47.9



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	32.9	49.6	51.1
B 図形	3	28.5	38.9	40.3
C 関数	4	45.1	58.1	60.7
D データの活用	4	37.1	52.8	55.5



令和6年度 大阪市立摂陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

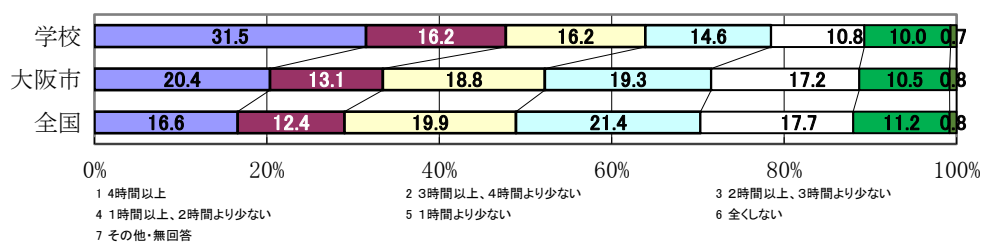
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

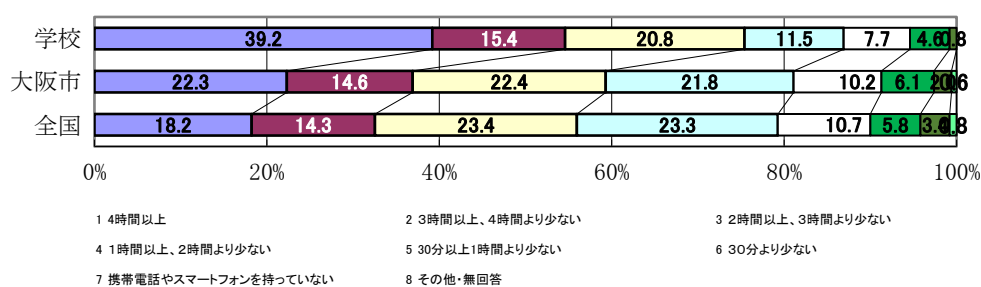
5

普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



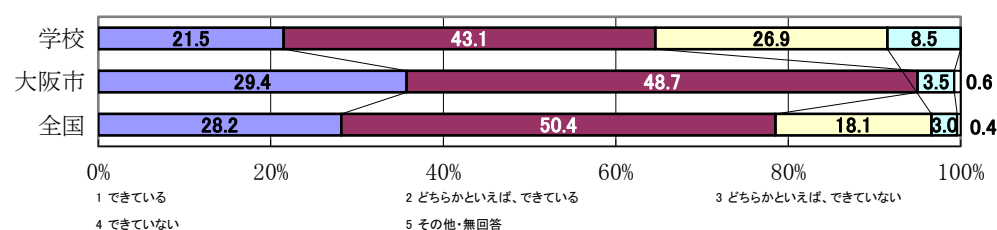
6

普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)



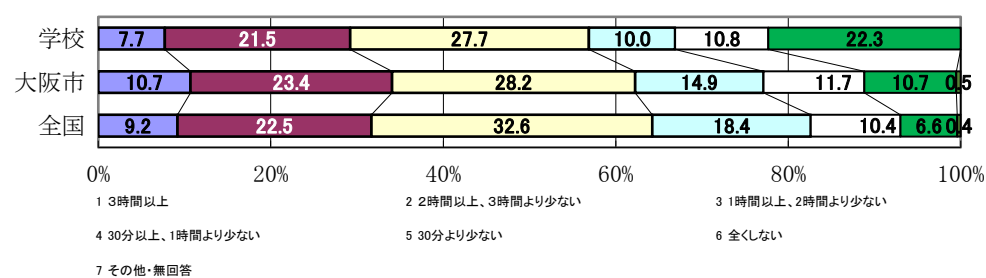
20

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



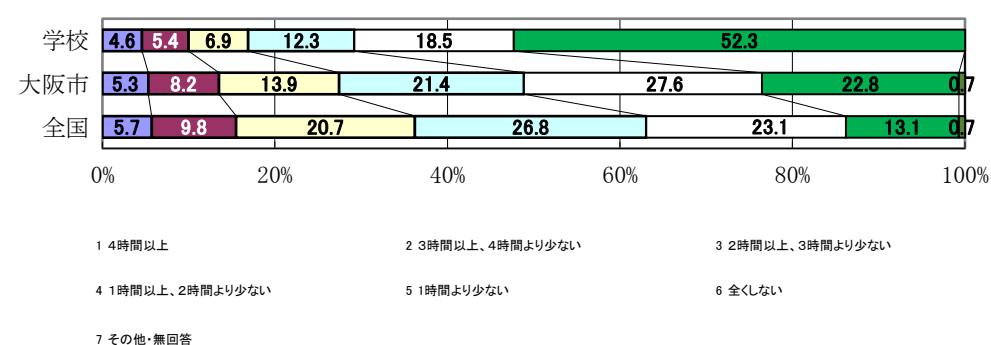
21

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



22

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



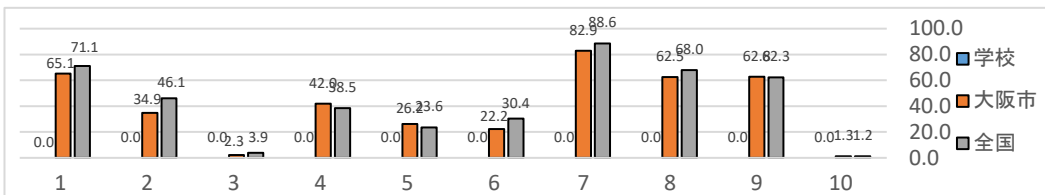
令和6年度 大阪市立摂陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より（26）

質問番号
質問事項

26

放課後や週末に何を
して過ごすことが多
いですか(複数選択)



1 学校の部活動に参加している

2 家で勉強や読書をしている

地域の活動に参加している(地域
3 学校協働本部や地域住民などに
よる学習・体験プログラムを含む)

4 学習塾など学校や家以外の場所で
勉強している

5 習い事(スポーツに関する習い事を
除く)をしている

6 スポーツ(スポーツに関する習い事
を含む)をしている

7 家でテレビや動画を見たり、ゲーム
をしたり、SNSを利用したりしている

8 家族と過ごしている

9 友達と遊んでいる

10 1～9に当てはまるものがない

令和6年度 大阪市立摂陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

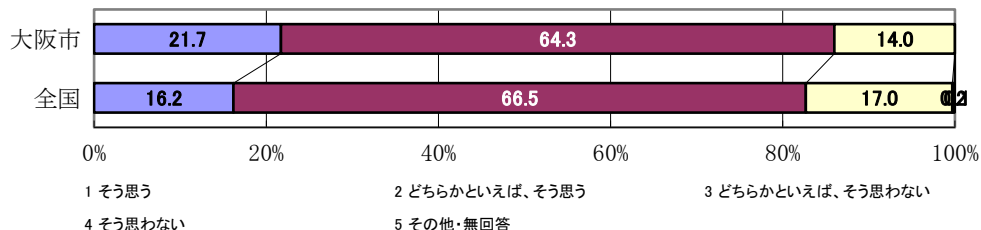
質問番号

質問事項

26

調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

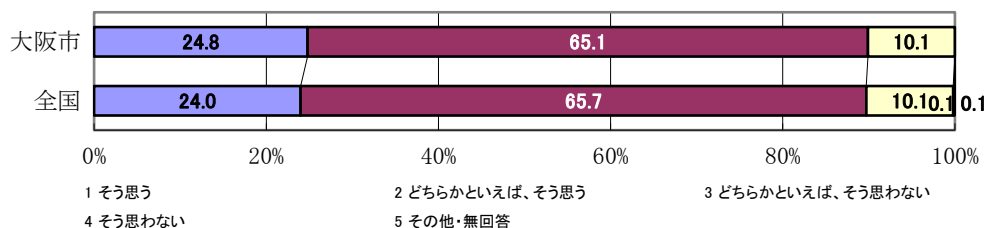
学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択



27

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

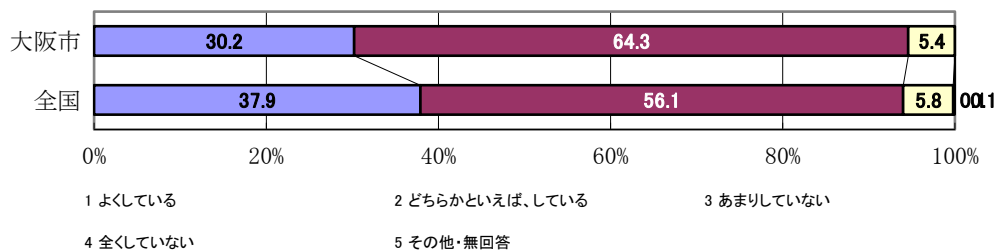
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



37

調査対象学年の生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

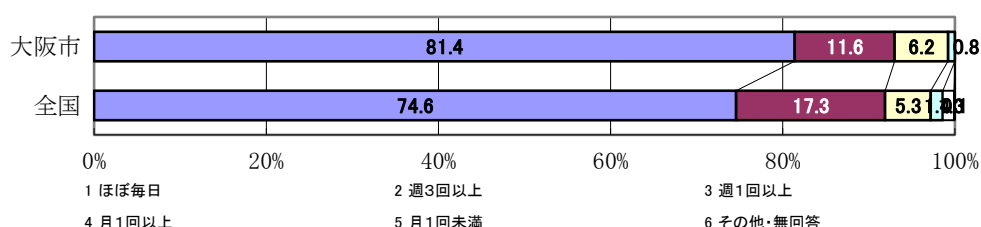
学校 「よくしている」を選択



57

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



59

コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

